

2016年度（平成28年度）

①（継）調査報告書

「和歌山県をめざす若者たち～『田園回帰』が語る希望・家族・地域～」

作成（継続取材・執筆）

人口減少社会が進み「地方自治体消滅論」が語られる一方、地方ではいま、農山村をめざす若者たちの移住の動きがつづいています。「田園回帰」と呼ばれる現象は、何を語り、示しているのか。きのくに活性化センターでは、平成27年度から、実相を探るため紀南地域の市町村で「田園回帰」の主演とされる若者たちを中心に、「いまなぜ移住なのか」、「なぜいまふるさとなのか」を訪ねてインタビューを重ねてきました。そこから見えてきたのは、若い世代のなかでいま起きている「子育て」「家族のかたち」「仕事のあり方」「人生の楽しみ方」のパラダイムシフトでした。

平成28年度は、平成27年度から取り組んできた紀南地域におけるUIJターンの現状と課題調査にもとづき、執筆作業を行ない、当初予定していたテーマ（仮題）「移住者と切り開く未来～地域コミュニティ再生への道～」は、取材内容をふまえて「和歌山県をめざす若者たち～『田園回帰』が語る希望・家族・地域～」とすることにしました。

移住者は、圧倒的にIターン者ですが、ふるさとにUターン、Jターン、孫ターンした若い世代の女性もいます。「都市ではなく山村で子育てをしたい」と考える人たち、仕事は家族との時間を大切にする暮らし、「ナリワイ」という仕事のスタイル、人口減少・超高齢化の地域でコミュニティの一員としての役割を担う人たちもいます。そうした希望のいっぼうで、移住から定住への課題も浮かび上がってきました。若者たちの声に学びながら、和歌山県の地域の未来を考える一報告書はそうした提案をめざします。

調査実施期間：平成27年10月～平成29年4月

調査地域：紀南地域8市町村

（紀北・紀中4町村）

研究調査担当：きのくに活性化センター事務局

協力：各市町村担当職員・地元住民

②（新規）世界遺産追加登録記念事業「西行IN熊野・新たな旅プロジェクト」

田辺市の鬮鷄神社、上富田町の八上王子社・稲葉根王子社が、平成28年秋にユネスコの世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録され、世界遺産登録から12年を経過

した熊野からの発信があらためて問われています。今回の事業は、紀州出身の歌人西行と熊野をつなぐ、あらたな試みです。

西行は、中世に活躍し日本文化の形成に影響を与えた歌人・僧侶で、平成30年は元永元（1118）年現在の紀の川市竹房に誕生して900年になります。したがって、平成30年は全国各地で西行を偲び語る、いろいろな企画が登場するものと思われます。そのため、「紀州人西行×熊野」事業は時宜を得たものと考えて立案しました。

平成28年度は、熊野における西行の足取りを追うため、文献を中心に資料を収集・整理するとともに、ゆかりの場所を訪ねてデータ（写真撮影）収集を行ない、またマップ製作に向けてイラストの検討に着手しました（未決定）。

センターの調査では、熊野で西行が詠んだ和歌は当初の予想を上回る23首にのぼり、歌の足跡は、みなべ町から田辺市、上富田町、白浜町、新宮市（旧熊野川町をふくむ）、那智勝浦町（那智山、大雲取）、新宮市、串本町までの各地にわたることが明らかになりました。

事業内容：「西行IN熊野・新たな旅プロジェクト」

i) 「西行生誕900年。いま西行と熊野を語る意味」シンポジウムの開催

歌人・宗教だけではなく紀州人、熊野の観点から西行を捉え直す。西行研究者（歌人または旅学研究者）による記念講演とパネルディスカッションで構成する。

京都東山・西行庵当主や紀の川市との連携の可能性も検討

ii) 西行の和歌で訪ねる熊野マップ「熊野の新しい歩き方」の作成

iii) 八上の桜茶会 八上王子神社での献茶式・記念茶会

席主・運営は地元を中心とした茶人

待ちきつる 八上の桜咲きにけり 荒くおろすな三栖の山風

③（継続）ブックレット「廃校舎活用モデル」作成にともなう追加取材

紀南地方を中心に、和歌山県内にある廃校舎の現在をリポートし活用のノウハウを探る調査研究書「廃校舎活用と地域コミュニティ」（スタイルは未決定）の発行に向けた調査を継続して行ないました。研究が長期になり「現場」が変わってしまった事例もあり、28年度は取材したデータの更新、追加した紀北・紀中地方（かつらぎ町天野・紀美野町真国宮・下津町大崎）の廃校舎の調査にとどまりました。さらに今後増えることになる町なかの廃校が課題になっており、それらの取材の必要性が出てきました。学校数は合計10校で、利用の実態、さらに学校統廃合の地方自治体の選択に関するリポートを加えて、次年度で作成することにしました。

④ (新規)「紀伊半島のさんま食文化研究会」設立

熊野の代表的な食文化のひとつであるさんまずしの文化を地域資源として再評価し、地域づくりに活かすとともに、日本の魚食文化を熊野から発信することをめざす活動。28年度は前年度に意見交換したあと、具体的な作業に着手できませんでした。

⑤広報活動「NEWSきのくに」発行について

- ・「NEWSきのくに」Vol.23号の発行

この号では、「地域」をテーマに紀南地方で地域づくりに取り組む人や団体のさまざまな活動とその周辺を取り上げました。関係自治体は、那智勝浦町、白浜町、すさみ町、太地町の4町。そのうち、すさみ、太地は「伝統」のふるさとの和菓子をつくり続ける2人の女性をシリーズ「地域をつくる女性たち」の一環として紹介しました。

巻頭は、和歌山大学経済学部岩田英朗准教授に「『地域の活力』は何か？」と題して寄稿してもらいました。